

テーマ:「モノ」を通して、時代を生き抜く豊かな「想像力」と「創造力」を身につける

【授業の主旨・目的】

大学生活もいよいよ後半ですね。今後は人工知能の発達で仕事や社会のありかたが大きく変わるとされていますが、残る大学での学びは、高校まではふれることがなかった学問分野の知識を得るだけで充分なのでしょうか。

私の専門は古代エジプト文明を研究する「エジプト学」ですが、過去のことを探れば探るほど、「物事には必ず始まりがある」ことを痛感します。そしてそこから現在までの流れを見ていくと、未来はこうなるのではと思うことも多いです。時代や地域は変わっても、人間の想いや行動には共通する部分があるので、考古学や歴史学といった学問は、人間が育んできた知恵やその背後にある普遍的な事柄を見出し、今の世の中や未来を考えるためにあるのだと気づかされます。そこでこのゼミでは、**具体的な「モノ(形あるものだけでなく社会現象なども含む)」を通して、時代背景を読み取る豊かな「想像力(imagination)」と、新たな「モノ」を産み出す「創造力(creativity)」を養うことを目的とします。**激動の時代を生き抜く力をぜひ身につけて、卒業後の人生に役立ててもらえれば幸いです。

【担当者について】

日本で人類学(主専攻:考古学)、イギリスでエジプト学を学びました。英語が苦手にもかかわらず、思い切って飛び込んだ世界でしたが、そこでのさまざまな経験が、今の仕事や人との交流、研究の方法につながっています。

中部大の前には池袋の古代オリエント博物館で学芸員をしていた関係で、古代エジプト展の監修を引き受けることがあります。エジプトというと、ピラミッドやツタンカーメンが頭に浮かびますが、型にはまった展覧会は嫌いなので、出来上がった展覧会を輸入してただ翻訳するのではなく、自身で企画を立て、海外のミュージアムで現地の学芸員と議論しながらコンセプトや展示作品を練り、会場のレイアウトやデザインなどを考えていきます。そのため、ショップのディスプレイやライティング、色使いなど、モノの見せかたはいつも街中でもチェックしているところです。

また、発掘調査なども行います。学部生の頃は縄文から江戸時代の遺跡まで、名古屋周辺や京都府をフィールドにしていますが、エジプトでは、階段ピラミッドやクレオパトラの時代の神殿調査などを手がけてきました。

【どのような人に来てほしいか】

「好奇心が強く、いろんなことから学びたい」人に来てほしいです。知識を上げ、多様なモノの見かたを培うために色々なテーマを持つメンバーでゼミを構成しています。現在のテーマは、木造の高層建築、クレオパトラ、イスラーム、裏原系ファッション、カフェのデザイン、USJ、猫グッズ、クルマの未来などさまざまです。もちろん古代エジプトも大歓迎で、大学院で教えた学生の1人は博士号を取得(古代エジプトで博士号を取れるのは、中部大を含め国内に4大学しかありません)し、他大学で教えています。優秀論文賞を取る学生もいますが、教員としてはあくまで**「物事を表面的に見るのではなく、中身を深く考える体験をゼミ生全員に味わってもらえる」**よう指導しています。

就職先も多彩で、銀行やホテル、商社、カーディーラー、デパート、ドラッグストア、公務員、イギリス留学後に世界的企業に入った人などさまざまですが、**「自身の好きなことを研究し、意見を出し合った時間がとても楽しかった」**と卒業後に言ってもらえることが、何よりの喜びです。なお、**ゼミ一番の特徴は「3年と4年の仲が良い」**ことですが、それを可能にするのは**「まずはやってみる」**をモットーに、興味があることを学外へ観に行ったり、旅行や忘年会を楽しんだり、世の中のトレンドを探るため大須など商店街でグループワークをしたり、と**色々な体験を共有することが背景にあります。**そうしたことを楽しめる人にとっては、きっと充実した2年間を過ごせるゼミだと自負しています。

【面談に際しての注意事項】

現在、学部の役職を務めていて急な会議も入るため、以下のアドレス宛てメールに複数の日時を記し、予約を取って下さい。内定解禁日には募集を終えることも多いため、関心がある人には早めの予約と相談を勧めます(特に第1週目は、まだ様子見の人が多いため狙い目です)。その際に、自身の関心やゼミに興味を持った理由を教えてください。色々な話を聞かせてもらうのを楽しみにしています。tnakano@isc.chubu.ac.jp